

# 女學生と結婚

武谷等氏談

結婚は人生の花であると共に、又終生の苦樂の分水界の如きものでありますから決して輕卒に取り定める性質のものではありません。

▲氣長に改良 結婚は其の當の本人は勿論、父母近親も出來得る丈け周到な注意をしなければならぬ事です、處が實際に於ては所謂見損ひをし、合縁氣縁と云ふ格で、目出度く高砂を祝ひ納め、申分無く四海波靜かに結ばれた結婚が、思ひの外脆く破壊する事實に逢着することか、世間には往々あります素よりこれは社會の習慣が宜く無い所から、不吉な結果に了るものありませう、併し然うかと云つて日本在來の結婚方法を全然不可とし、一も無く二も無く高襟的に、歐米風を其儘我國の家庭に移すと云ふことは、尙更宜く無い許りか、顯る難かしい企てである、思ふにかゝる事柄は急激に革む可きもので無いから氣長に改良するの外

は無いと思ふ。

▲着眼すべき要點 結婚に就いての急務は、是から良縁を求めて結婚しやうとする當人の着眼すべき點で、之れが最も大切な問題であります、十人が十人、皆がさうと斷定するものではありません、兎角若い婦人は容貌許りを喧しく有仰つて、結婚の一大要件の様に過重視する事は、人情として無理ならぬ事ですが、先づ大抵な處で我慢した方が宜しいと思ひます、何んとなれば夫婦の愛情は容貌の美醜に毫も何等の關係が無いのを以つても判ります、ですから矢張り末長く同棲するのには決して容貌などには何等の關係も何等の不都合も認めませんし、其上一向何の不自由も感じ無いのであります、それよりか同棲する段になつて困る事は互につまらぬ事や、氣に入ぬ事などを言つたり、爲たりする様な事がある様では、曩に清しいと見惚れた目も小さくなり吃と締つた口元も物凄く見え出すものであります、之に反して始めは下り目で、低い鼻、厚い唇、よくも、麼慥に醜い人と一所になつたものだ、吁情無い運命だ、實に千

載の不覺、一生の失敗であつたなど、思つて居たものが段々月日が経つに連れ其の言語動作が悉く我が意に叶ひ、遂に一轉して俄に愛すべく、尊ぶ可き尊敬が起る様になる例が幾らもあり、是れは當に夫婦間許りで無く友達などの間にも随分ある事ですから、人の選擇に就ては、極めて慎重な態度が必要であります、況んや結婚に就ては猶更の事であると思ひます、要するに精神の美は終生的で、身體の美は一時的であります、而して精神の美は、身體の美に比して遙かに優越して居る事は誰れしも異論の無い事と思ひます、身體美の缺點は容易に精神美で補足する事が出来るものです、

▲老後の考へ 前に述べましたのは反對に、時分(女子)の方が假に縹緲が醜いとした場合には、いくら夫に愛情を擧げても遂に非常に悲觀するやうな事が出来、縦令それ程迄の事が無いにしても互に感情の衝突は免れない、然うして夫婦が面白くなく暮すと疑心暗鬼を生じて嫉妬の標的となる實例は随分世間にある事です、殊に年を取つて互に相扶け合つて行く様になりますと、それこそ全

く最初結婚當時に、唯一の理想として居た容貌などは殆んど眼中に無くなるものです、そこで是れから良縁を索めやう、結婚して一家を整へやうとする女學生諸子が容貌と云ふ事を結婚の最大要件とする事だけは甚だ面白く無い事と思ひます。

▲家門の貧富 尙ほ容貌に次いで心得て置くべきは、家内の優劣、貧富貴賤をかれこれ云ふ事です、これは若い人よりも却つて老人の頭に有り勝ちな通弊であります、尤も家柄や地位が良いに越した事は無い、上流の人達は優美で、高尚であるから多くの人から貴ばれ、儀式的の尊敬を拂はれます、又財産は生存上、文明の進歩に連れ益々必要であります、然うかと云つて餘り財産を過重視するのは宜しく無い許りか、徒に權門に媚びたり財力に屈従する人物程、心の下劣なもので、男の癖に身に綺羅を着け、他目を胡魔化して密かに不徳の行ひを敢てするやうな柔弱男子を夫に持つて、暗い人の陰に哭いて居る婦人は、蓋し妙く無いと思ひます、實際に平和な圓滿な生活を送つて、道徳上批難の少い人は、確かに上流社會よりも、下等

社會よりも中流社會に多いやうです、ですから家門とか財産とかを、過重視するのは、何の方面から見ても餘り感心した事ではありません。

▲人物を選べ 然らば結婚する間に、最も尊重すべき必要な條件は、何んであるかと云ふに、それは言ふ迄も無く、未來の夫と定むべき男の人物如何に注意すべき事であり、併し殆んど理想に近い人物を得る事は、餘程難かしい事で、家門として、財産などの調べに比べると頗る容易でありません、尤も人物の選定は、自分丈の考で、獨で定めるは以ての外の所置かと思ひます、恚う云ふやうな大切な事柄は、充分父母親戚知己や先輩などに打ち明けて、其意見を叩くことが必要であり、俗に三人寄れば文珠の智恵と云ふではありませんかどうしても物事は、何事に依らず、一人よりは二人、二人よりは數人、氣の合つたものがありつ丈の恵智を絞つて、互は商議して決定するに越した事はありません、斯うして定めたる結婚は、先づ九分九厘迄成功しませう、例之全く見當が狂つたにしろ烏と鷲は違ひません、夫れ

▲年の違ふ夫婦 故に若氣の向ふ見ずの事をするより、他の人々に相談した上で、其の意見に服従した方が安全かと思ひます、西洋の婦人は自分勝手の意嚮によつて結婚を定めるやうな事は、決してありません、必ず先づ両親や兄弟や朋友等の意見を聞き、宛で石橋を叩いて渡ると云ふ風であります、又彼の國の習慣として、其間に或制裁があります、さうは勝手氣儘が出来ない様になつて居ます、四、

▲素人同様丈に考へが獨り天狗になつて居て、何れも彼も自分の事は自分で選擇した方が宜い杯と自分許免で人生の最も大切な結婚を輕々しく決行するものが多いから、遂に破鏡の嘆に泣くやうな事が持ち上るのです。

▲現在の女學生は、社會の事とか家庭の事などに、全く素人同様丈に考へが獨り天狗になつて居て、何れも彼も自分の事は自分で選擇した方が宜い杯と自分許免で人生の最も大切な結婚を輕々しく決行するものが多いから、遂に破鏡の嘆に泣くやうな事が持ち上るのです。

▲年の違ふ夫婦 故に若氣の向ふ見ずの事をするより、他の人々に相談した上で、其の意見に服従した方が安全かと思ひます、西洋の婦人は自分勝手の意嚮によつて結婚を定めるやうな事は、決してありません、必ず先づ両親や兄弟や朋友等の意見を聞き、宛で石橋を叩いて渡ると云ふ風であります、又彼の國の習慣として、其間に或制裁があります、さうは勝手氣儘が出来ない様になつて居ます、四、

▲素人同様丈に考へが獨り天狗になつて居て、何れも彼も自分の事は自分で選擇した方が宜い杯と自分許免で人生の最も大切な結婚を輕々しく決行するものが多いから、遂に破鏡の嘆に泣くやうな事が持ち上るのです。

▲年の違ふ夫婦 故に若氣の向ふ見ずの事をするより、他の人々に相談した上で、其の意見に服従した方が安全かと思ひます、西洋の婦人は自分勝手の意嚮によつて結婚を定めるやうな事は、決してありません、必ず先づ両親や兄弟や朋友等の意見を聞き、宛で石橋を叩いて渡ると云ふ風であります、又彼の國の習慣として、其間に或制裁があります、さうは勝手氣儘が出来ない様になつて居ます、四、

▲素人同様丈に考へが獨り天狗になつて居て、何れも彼も自分の事は自分で選擇した方が宜い杯と自分許免で人生の最も大切な結婚を輕々しく決行するものが多いから、遂に破鏡の嘆に泣くやうな事が持ち上るのです。

生活の困難な故もありませうが、中には随分地位もあり財産もある婦人でありながら、猶且つ自分よりは二倍以上も年齢を取った人と結婚する人を澤山見受ます、詰りこれは人物の選擇に重きを置き過ぎる結果であります、勿論年齢も餘り相違の無い方が宜しいけれど、人物の選擇は、宜しく西洋婦人を手本とすべき事です、さすれば財産も地位も思ふ通りに得られ、一生を安全に幸福に送る事が出来ませう。

▲性質の配合 さて人物の選擇は云ふ迄も無く自分の現在の地位と、境遇とを顧みて、其の上で種種な嗜好などを調べ、俗に似たもの夫婦と云ひますが寧ろ性質は全く違つて居る方が、却つて好い場合が多いのです、最も斯る事柄は、全く一概には云へませんが、一例を擧げて見ますと、夫婦の間でも朋友の間柄でも、悠長な者には夫れと反對に短兵急な者が、極めて克く調和して行きます、それと同じ譯で、夫婦間に於ても、然う云ふやうな配遇を得たならば、家庭は實に圓滿に治つて行くでせう、是れを約言すると、夫婦は互に自己の

短所を自覺すると、同時に、他の一方には彼の長所を認識しなければなりません、夫が精神を過勞する職業であつたらば、妻はなるべく、平坦な精神生活をした方が、當人同志の爲めにも善いと思ふ、歩深く進んでは、子孫の爲めにも善いかと思ふ、其他潔癖同志、無頓着同志、交際好き同志等の夫婦は初めから意氣が克く投合し融和する事でありませうが、却て永い間には宜しく無い場合の方が多いのです。

▲結婚は義務 結婚は一面に於て人間の義務であります、吾人は自己の心身を祖先から承けたので自己も又子孫に心身を傳へなければ濟みません、併し萬已むを得ない事情のある外は、必ず結婚をしなければなりません、結婚の必要な事は、獨身生活の人に就て見ても弊害の有る事が判ります、即ち獨身者は情愛の薄い冷酷な猜疑心の深い、底意地の悪い人が多いのです、そこで女學生諸君は云ふ迄も無く、既に學校を卒へて家庭で家事の経験を積まれて居る諸嬢は、苟も人間と生まれたい以上、是非共然るべき夫を迎へ、男子の助力を仰ぐ

可きは勿論、女子としての義務を盡さなければならぬ、結婚する前には極めた周密的な注意をして、詰らぬ事に耳を傾けず、又他人に煽動されないやうにして、良縁を索める事が大切で、最後に花嫁が夫に對する注意をざつと云て見ますと、

一、善く貞操を守り、苟にも愛を二三にす可ず、夫の業務を知り、苦心を察し、嗜好を慮り、慰藉に勉めよ。

三、能く内を治め、夫をして内顧の憂いながらしめよ。

四、敬を守り、愛に裏る可らず。些細の事に悲み啣ち、不快不幸をもらす事ある可らず。

六、家庭の秘事を語る可らず。熱誠を盡せ、假りにも冷淡なる可らず。

七、嫉妬は悪しからずと雖も、其度を過せば愛を損じ、害を醸す事あり。

八、心に無念と思ふ事ありとも、外に對しては夫の面目を保て。

九、(時事)

### 感じたるまゝ

### 樂天子

世の兒童を教育すると云ふことは、只口の先でいふて聞かすといふばかりのものではありません、平たくいへば見習はせると云ふことが大部分含まれて居ります、そこで小學校の先生杯は、いくら學者でも、小供を見習はせるに適當な人下なければ駄目です、口のきき方が柔しく綺麗で、人の扱方が上手で、起居動作から氣質までが、悉く見習ふに足る先生でないといけません、殊に幼稚園や尋常一年の先生は格別さうなければならぬ、幼稚園に入れやうといふ方が敷の敷へ方なりとも、今頃から覺えさせて學校に上る時の補助にしようとか、家庭で、八釜しいから只遊ばせにやりたいと云ふやうなお考だと、大變な間違なのであります、又子供を充分見習はせるに足る幼稚園をお選びになりませんと、四五才六七才までに見習つた事は中々改めやうとしても六ヶ敷のであります、